

# 千葉教育

梅

令和6年度  
No.689

千葉の子どもたちの未来のために

特集

## 学級経営を考える

○シリーズ 現代の教育事情

国立大学法人上越教育大学 教授

赤坂 真二

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

○提言

日本パラリンピック委員会委員長

河合 純一



千葉県総合教育センター

◆学校自慢 みんなの「いいね！」をみんなのために	東金市立東小学校校長	新田 篤
◆提言 パラリンピックを通して考える共生社会	日本パラリンピック委員会委員長	河合 純一…2
<b>シリーズ 現代の教育事情 学級経営を考える</b>		
■学級経営のフレームワーク	国立大学法人上越教育大学教授	赤坂 真二…4
■好ましい人間関係を育む学級づくりについて～「学級づくりガイドブック」より～	県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班	…8
<b>チーム学校の仲間たち</b>		
■学校を創る 「希望の登校 満足の下校」を目指して～子供たちも教職員も幸せに過ごせる学校づくり～	我孫子市立我孫子第三小学校校長	加藤貴久子…12
■学校を支える 「保護者・卒業生・地域に支えられた教育活動について」	県立浦安高等学校教頭	吉田美佳子…14
■学級を創る 「笑顔あふれる学級」を目指して	多古町立久賀小学校教諭	高橋 志穂…16
■学級を創る 本音で語り合える集団づくりの工夫～思考ツールを用いて～	袖ヶ浦市立平川中学校教諭	川上加奈子…18
■学級を創る 自己実現ができる学級づくり～個人と集団の成長を往還させる教師の働きかけ～	松戸市立旭町小学校教諭	杉本 一生…20
■学級を創る “誰一人取り残すことのない学級経営”をするために	柏市立柏中学校教諭	村政 雄輝…22
■学級を創る すべては子どもたちのために～学級経営を生かした「授業創り」～	山武市立日向小学校教諭	高梨 晃一…24
<b>長期研修生報告</b>		
■令和5年度長期研修生の研究の紹介		令和5年度長期研修生…26
<b>ケーススタディ～Change the world～</b>		
■学習者主体の学びを実現するためのICT支援ツール「Ne! クスト」を活用した授業実践	県立特別支援学校流山高等学園教諭	山崎慶太郎…30
<b>情報アラカルト</b>		
■令和6年度研究発表会について	県総合教育センター・県子どもと親のサポートセンター	…32
■「全国学力・学習状況調査」結果の活用について	県総合教育センター学力調査部	…33
■県文書館企画展「海を渡った房総の人びと」	県文書館	…34
■国際パラリンピック委員会公認教材『I'm POSSIBLE (アィムポッシブル)』日本版	日本パラリンピック委員会『I'm POSSIBLE』日本版事務局	…35
<b>学校 NOW !</b>		
■高校NOW !	【連載・県立高校の今】令和6年度 第4回 【解説と紹介】学科紹介① 学科の種類及び普通科について	県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室…36
◆発信！特別支援教育	通常の学級における聴覚と視覚支援を用いた自作支援ツールによる行動支援の工夫	習志野市立東習志野小学校教諭 土井 淳…38
◆千葉歴史の散歩道	房総のたからもの一人々を魅了した青銅鏡一	県教育庁教育振興部文化財課指定文化財班文化財主事 渡辺 夏海

## 道 標

令和3年1月の中央教育審議会答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とし、「『協働的な学び』において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。」としている。また、令和4年12月に改訂した生徒指導提要では「学級・ホームルームは、児童生徒にとって、学習や生活など学校生活の基盤となるものです。児童生徒は、学校生活の多くの時間を学級・ホームルームで過ごすため、自己と学級・ホームルームの他の成員との個々の関係や自己と学級・ホームルーム集団との関係は、学校生活そのものに大きな影響を与えることとなります。教員は、個々の児童生徒が、学級・ホームルーム内でよりよい人間関係を築き、学級・ホームルームの生活に適応し、各教科等の学習や様々な活動の効果を高めることができるように、学級・ホームルーム内での個別指導や集団指導を工夫することが求められます。」と示されている。

本県においても、第3期千葉県教育振興基本計画の施策1及び5の主な取組として「よりよい学習活動を支える学校・学級づくりに向けた取組の充実」を掲げており、千葉県教職員研修体系ではステージI（成長期）の目標に「学級経営等で、可能性や活躍の場を引き出す集団作りをしている。」と示している。

このように、学級経営は協働的な学びやよりよい人間関係の構築など、学校生活の基盤となるものであり、すべての教職員が身に付けるべき力でもある。一方、学級経営の内容は多岐にわたるとともに、学校規模や児童生徒の状況、地域との関係等多様であり、学級経営に悩んだり、困難を感じる教員も多いと推察される。

本号では、学級経営について有識者による解説や、当センターの調査研究の概要を紹介する。また、担任として悩みや困難を抱え、それらを克服すべく奮闘している先生方など、様々な視点から「学級経営を考える」について語っていただいた。一人一人の先生方にとって、より良い学級経営の一助になれば幸いである。